

流山とりだより

流山野鳥同好会

No.153

2025年10月10日



●チョウゲンボウ 幼鳥
あらよっと！ 今年も元気に巣立ちました。

2025.06.30 流山市
撮影：森岩好明

観察会から

●三番瀬海浜公園観察会

2025年9月21日

和田 椋甫（写真提供：東原 聡、服部 洋之、今泉 毅）

初めて訪れた三番瀬海浜公園、2ヶ月ぶりの観察会でワクワクし過ぎて集合1時間前に着いてしまいました。(集合時間を間違えたのはココだけの話です…)。日々、野鳥の知識をアップデートさせているつもりでも、今回の主役のシギ・チドリとなるとこれまた知らないことだらけです。

そんななかスタートすると、早速トウネンの群れとそれに混じるミユビシギ。トウネンは他の仲間と比べると小さくて、ちょこまかと動く姿は、まるでゼンマイ仕掛けのおもちゃのようでした。



ミユビシギ



トウネン



潮溜まりで

次に、遠くに見える白黒の体はミヤコドリです。オレンジ色の立派なくちばしは、まさにニンジンのようなようです。海ではあまり見られないウズラシギも姿を見せ、内容の濃い観察会となりました。と、当たり前のように鳥の名前を書いてますが、もちろん1人で同定できたわけではありません。教えてもらって「ああ！これがトウネンでこっちがミユビシギ！」と納得しましたが、別の群れを見た瞬間に「あれなんかちょっと違う？」とすぐに自信がなくなりました。一筋縄では行きませんね。それでも、図鑑を広げ、皆んなでああでもないこうでもないと言いつつ首をひねる時間が楽しいです。

合間には「ミユビシギは3本のユビだから三趾鷗！」というのを聞いて必死に足元を見たり、「ウミネコの嘴は先端から赤、黒、赤、黄」と聞けばすかさずウミネコにピントを合わせたりと、干潟の上で大忙し。調べればすぐに分かるかもしれませんが、ですが、現地で鳥と向き合ってこそ刻まれる知識があると思います。間違えたり、分からないまま終わることも多い。ですが、それも含めて観察の醍醐味だと思いました。



ミヤコドリ



何とウズラシギ！



ウミネコ

潮風に吹かれ、気づけば肌は真っ赤に日焼け。それすらも心地よい余韻です。これから冬鳥たちも渡ってくると、またにぎやかになりますね。次はどんな鳥に出会えるか楽しみで仕方ありません。

◆編集から 当日は大潮で目の前は広い干潟。シギ・チドリたちの世界でしたね。参加された皆さんから感想をいただきました。ハヤブサやミサゴまで飛び出した濃厚な一日をご堪能あれ。

<参加者の皆さんから>

- 今回で2回目の三番瀬。目の前には海と干潟だけではなく高層マンションや工場、沖に浮かぶ大きな船、葛西臨海公園の観覧車などいろいろなものが視界に入ってくるのでワクワクしますね。
まずは、遠くを覗くと干潟の奥の水際にはたくさんのダイサギが！ あの子たちは海にもいるのね、と思いつきながら近くではウミネコが飛び交い、さらにトウネン、白っぽい冬羽に移行中のミュビシギを教えてくださいいただきじっくり観察。少し遠くにいたミヤコドリも教えていただき赤いくちばしを確認。
バーダーさんたちがたくさん集まっている水際まで移動すると、数多くの鳥が集まっており、その中には、ハマシギがいくちばしの先が下にむいているのを確認できました。沖をみるとカワウの大群が海を横断する感じで飛んでいましたが、ちょっと怖い感じも・・・。
観察のフィナーレ(?)は、恐るべしハヤブサ！ 上空に現れると干潟の鳥たちはあっという間にいなくなり観察終了という感じになりました。その影響力にビックリ！ そのあとにミサゴも現れ、猛禽を2つチェックでき、なんとなく満足。
帰りの「バスを待つ間にい〜」の缶ビールは最高一杯でした。相馬さんをはじめ皆様ありがとうございました。
(服部洋之さん)



水際にはダイサギが・・・



カワウの大群！

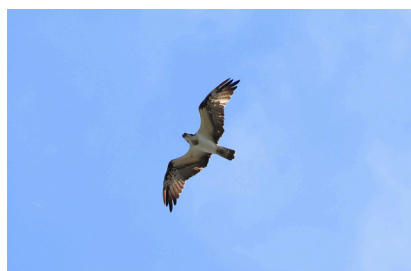


あっち見て

- 海浜公園初めてのウォッチング。スケールの大きさにびっくり。次回は足元を確保（長靴）で参加します。ありがとうございました。
(後藤邦宏さん)
- 秋晴れの下、気持ち良い浜風に吹かれながらの干潟の探鳥でした。リーダーの指示のあったサンダルを持参しなかったのが、干潟の移動は少し苦労しましたが、多くの種類のシギを見ることができ、最後には付録のハヤブサまで見ることができて良き探鳥日でした。
(近澤 宏さん)
- ミュビシギがチョコチョコ歩くのがかわいかったです。風がなくゆっくり観察することができて良かったです。
(今泉好美さん)
- 昨年に続いて2度目の訪問でしたが、今回は風が穏やかで心地よく観察できたのが良かったです。突然ハヤブサが来襲し、ウミネコやハマシギ等が一斉に飛び立った時は本当に驚きましたが、貴重な体験となりました。
(東原 聡さん)



ハヤブサ登場



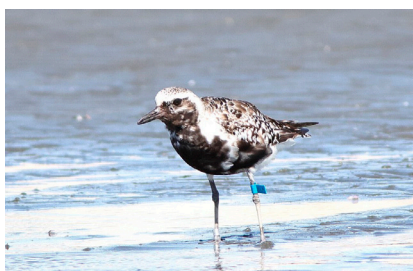
ミサゴも・・・



オオソリハシギも

- 晴れて良かったです。ウミネコのクチバシの色、はっきり見えました。トウネン、近くで見られて良かったです。ミヤコドリ、クチバシが人参みたいでした。ハヤブサが来るとほとんどの鳥が逃げました。捕まったら食べられる厳しい生活です。(菊池和子さん)
- かなり近くで見られたミュビシギは声も聞くことができ、参加して良かったです。声もそれはそれは可愛い声でした。
- 天気がよく広々とした海辺で気持ちよかったです。シギチは色や大きさが似ていて、自分だけではわかりませんが、みなさんに教えていただいてよかったです。

●明るい日差し爽やかな風、水際でトウネンやハマシギが砂をつついてエサをついばんで、のどかなバードウォッチング。今日心に残ったのは、ハヤブサの登場！ のんびりダイゼンやトウネン、ハマシギの群れを見ていたら一斉に飛び立って！ 周りの人の「誰か動いたの？」なんて言っている声。その後「ハヤブサ」という声とウミネコの群れまで飛んできて、まるで映画のワンシーン。いいものが見られた探鳥会でした。（砂浜を歩くのも心地よかったです！）



ダイゼン



ハマシギの群れ



いつも間にオバシギ

◆観察した鳥

カワウ、アオサギ、ダイサギ、ミサゴ、ハヤブサ、ミヤコドリ、ダイゼン、オオソリハシシギ、ミユビシギ、トウネン、ハマシギ、ウズラシギ、ウミネコ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
(鳥合わせ後 スズメ、オバシギ)

以上 15 + 2 = 17 種

◆参加者

朝日真紀子、今泉 毅、今泉好美、落合 聡、菊池和子、後藤邦宏、鈴木瑞枝、相馬利雄、近澤 宏、服部洋之、東原 聡、宮原 誠、吉田令子、和田椋甫

以上 会員 14 人



内容が濃すぎで～す

<特別寄稿> アオサギ営巣記録（水鳥の池）

文・写真：東原 聡

1. はじめに

アオサギは皆さんご存じの通り日本で繁殖するサギ仲間では最も大きく、両翼を広げると大人の身長ほどにもなります。水鳥の池にもたまに現れては、その大きな翼をしなやかに羽ばたかせながら悠然と飛ぶ姿を見せられると、池の王者のような風格を感じてしまいます。



水鳥の池にて（2024年10月撮影）

そんなアオサギが今年の3月から水鳥の池のヨシ原の一角に定住するようになり、ペアで佇んでいる様子も見られました。こんな水辺で営巣するのかと思っていたところ、やがて卵のようなものを発見し、ヒナが誕生したことも確認。

その後は、まさにドラマのような展開もありましたが、拙いながらも観察記録としてまとめてみましたので、ここにご報告いたします。

2. 新たな命

水鳥の池のヨシ原で最初に見かけたのは、3月9日でした。その後は毎日のように同じ場所で佇んでおり、最初は1羽のみだったのが、そのうちペアで見かけるようになりましたので、繁殖に期待を寄せて見守ることにしました。

■ 2025年3月23日

この日はペアの片方が池の周囲に飛び立ち、写真のように巣材をくわえて巣に戻ってくることを何度も繰り返していました。

そのたびに巣で待っている方が驚いたような仕草をしたり、運ばれてきた小枝を一緒にくわえたりと、その反応がとても微笑ましかったです。（ノ）



2025年3月23日撮影

■ 2025年4月19日

ほぼ完成した巣の真ん中に、卵のような白いものを発見した時は嬉しかったです。このあと抱卵している姿も見えましたが、この時点では産卵したのは1つのようなでした。（→）



2025年4月19日撮影

■ 2025年4月27日

卵を発見した日から予想すると孵化するのは5月に入ってからかと考えていましたが、この日カメラのファインダーの中にいたのは毛むくじゃらの可愛いヒナでした。翌々日にも確認できて、この時点ではこれからの成長がとても楽しみでした。(↙ ↓)



2025年4月27日撮影



2025年4月29日撮影

3. そして誰もいなくなった

■ 2025年5月3日

それから4日後の5月3日、親鳥はいつも通り仲良く一緒にいたり、写真のように片方が巣材を運んでる様子が観察出来たものの、ヒナがいるはずの足元には何も見えないので、少し不安を感じます。(→)



2025年5月3日撮影

■ 2025年5月5日

翌々日、巣はもぬけの殻で親鳥までいなくなっていました。カラスにやられたのか猛禽に連れ去られてしまったのでしょうか。(→)

やはり5月3日の時点でヒナは既に居なくなっていたと思われませんが、それにも関わらずペアで営巣活動を続けていたのがいじらしく、とても切なかったです。

ただ、救いだったのは同じ日にその巣から20メートルほど離れた浮島に、アオサギが3羽佇んでいたことでした。居なくなった個体と同じかどうか分かりませんが、それぞれ少しずつ離れてじっとしていたので、そのうちペアになってまた繁殖してくれないかという思いが募ります。(→)



2025年5月5日撮影 (上下とも)



4. 新たなる希望

切ない思いをした5月5日から僅か3日後に、嬉しい出来事がありました。この日からまた観察を続ける意欲が湧いてきました。

■ 2025年5月8日

浮島にいた3羽のうち、早速カップルが誕生。先日と同様に片方が小枝をくわえて飛来するなど営巣を始めた様子まで見られました。(↑)



2025年5月8日撮影 ①

しばらく観察していると、突然交尾を開始。後で調べてみると、上に乗ったオスがバランスを保つために嘴でメスの首を噛むようですが、全くその通りの動作でした。(↙ ↓)

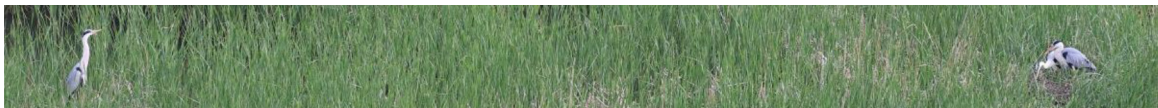


2025年5月8日撮影 ②



2025年5月8日撮影 ③

ところで5月5日にこの浮島で見かけた3羽のうち、もう1羽はどうなったのかというと、このペアから10メートルほど離れたところで、首を長く伸ばして交尾の様子をじっと見ていたのです。もしこの1羽が最初のペアの片方だったらどんな思いだったのだろうとつい余計なことまで考えてしまいました。(↓)



2025年5月8日撮影 ④

■ 2025年5月14日

交尾から6日目に卵らしきものを発見。翌日には抱卵している様子も見られました。



2025年5月14日撮影



2025年5月15日撮影

5. さよならは突然に

もしヒナが誕生していたら、このページのタイトルは「王者への道」とでもして、巣立ちまでの成長記録をここにご報告したかったところですが、それはあまりに突然のことでした。

■ 2025年5月18日

アオサギは一日置きに卵を3個から5個産むそうですが、前回同様にそうはならず、この日も卵のようなものが僅かに見えたものの、やはり1個だけでは心配が尽きません。(→)



2025年5月18日撮影

■ 2025年5月25日

この頃になると草が伸びて、卵が確認出来なくなりましたが、相変わらず巣材を運び込んでいました。また交尾するかのように、片方が背中に乗っている様子も見られました。



2025年5月25日撮影 ①



2025年5月25日撮影 ②

■ 2025年6月1日

前日まで大雨だったため心配していましたが、アオサギは定位置でしっかりと巣を守っていてひと安心。ただ、あれだけ仲睦まじくしていたペアが少し離れた位置で佇んでおり、まるで別居状態のように見えました。(↙)

暫くすると片方が飛び立ち、また巣材を持ち帰るのかと思っていたところ、そのまま遠ざかってしまい、更にはもう片方も少し経ってから巣を離脱。そして池の上空を名残惜しそうに周回した後、江戸川方面に飛び去って、もう戻っては来ませんでした(↓)



2025年6月1日撮影 ①



2025年6月1日撮影 ②

6. おわりに

3月初旬から6月1日までアオサギ三昧の日々を過ごしてきましたが、呆気ない幕切れで終わってしまいました。卵は雨で流されてしまったのか、それともペアが喧嘩別れでもして



水鳥の池にて
(2024年10月撮影)

卵を見捨ててしまったのか分かりませんが、雨の日も風の日もじっと抱卵を続けていた姿を見てただけに本当に残念ですし、アオサギにとっても無念だったと思います。

あの日、どんな想いで水鳥の池を跡にしたのか、浮島にいた3羽うち、1羽はどこに行ってしまったのかと色々考えると辛いですが、これに懲りずに来春もまた営巣のために戻って来てくれることを願うばかりです。

起承転結でいえば、「起転起結」のような観察記録となってしまいましたが、アオサギをととても身近に感じた3ヵ月間となりました。観察の途中で適宜アドバイスをいただいた相馬さん、菅野さんには心より感謝しております。

以上

<会員さんから>

拝読いたしました。とても読みごたえがあり、一連のドラマに強く心を動かされました。まるで私自身がアオサギたちを見守っているかのような錯覚に陥るほどでした。

繁殖が決して容易ではなく、巣立ちまで辿り着くことの難しさに、自然の厳しさを改めて感じさせられます。一方で、失敗してもなお営巣に挑み続けるアオサギたちの逞しさには、勇気をいただきました。

来季こそ、再び水鳥の池で営巣し、無事に巣立ちまで見届けられることを願っております。感動をありがとうございました。



◆鳥だより——フィールドノート拝見

猛暑を乗り越えて酷暑の夏。流山の夏は鳥の動きが見えなくなる時期ですが、人間の方もあまり出歩けない夏でしたね。まだ暑い日もありそうですが、秋冬の鳥たちも入ってきています。

新川耕地、江戸川地区

7月10日 …トビ、モズ（巣立ち幼鳥）、チュウサギ、ダイサギ

9月11日 …ノスリ、モズ、イソシギ

9月23日 …ケリ（2）、カルガモ、カワセミ、ダイサギ、アオサギ、モズ、キジ

相馬利雄

相馬利雄

若林幹夫

江戸川・南流山地区

6月30日 …チョウゲンボウ、ハクセキレイ、ムクドリ

9月23日 …オナガ、イソヒヨドリ

森岩好明

相馬利雄

市野谷・おおたかの森地区

8月7日 …コジュケイ

9月15日 …ヤマガラ

9月23日 …モズ

9月23日 …カケス、フクロウ（声）

菅野文夫

菅野文夫

菅野文夫

相馬利雄

江戸川台地区

7月9日 …ツミ、オナガ、キジバト、ムクドリ

7月18日 …ツミ、オナガ、キジバト、ムクドリ

9月20日 …コゲラ、シジュウカラ

森岩好明

森岩好明

鈴木淑子

新川耕地・江戸川地区



モズ（幼鳥） 2025.07.10 相馬



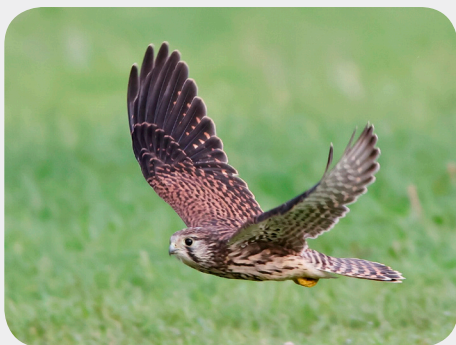
ノスリ 2025.09.11 相馬

江戸川・南流山地区



チョウゲンボウ（幼鳥） 2025.06.30 森岩

江戸川台地区



チョウゲンボウ（幼鳥） 2025.06.30 森岩



ツミ 2025.07.09 森岩



ツミ 2025.07.09 森岩

富士見台・中野久木地区

9月13日…サシバ（若鳥）

9月22日…カケス（3）

若林幹夫

若林幹夫

松伏 緑ヶ丘公園

9月20日…コガモ（10）、ゴイサギ、カイツブリ、ツツドリ、アオサギ、ダイサギ、カワウ

相馬利雄

★「鳥だより」をお寄せください。

通勤、買い物途中などで見かけた鳥の身近な観察情報、初認情報などをお待ちしています。
【連絡先】e-mail : mikio-wa@rf6.so-net.ne.jp 〒270-0127 流山市富士見台1-367-49
同好会HPの「鳥だより（観察記録）」への投稿も転載します。
次号の「鳥だより」は12月20日までをお願いします。

会報『流山とりだより』充実にむけて——会員部からお願い

幹事が中心に執筆してきた会報『流山とりだより』ですが、より多くの会員の方にご寄稿・ご投稿いただき、“みんなで作る会報”にしていきたいと思えます。みなさんのご寄稿・ご投稿をお待ちしています。

◆観察会から……観察会ごとに原則お一人（ご家族などでの執筆もOK）

定例観察会や会員限定観察会のレポートです。「長い文章はちょっと……」という方は、次の事柄のみでもOKです。その他の基本情報や補足情報は幹事が適宜書き加えて仕上げます。

- ・その回の観察会で楽しみにしていたことは？
- ・観察した鳥で印象に残っているのは何？ その鳥のどんなところが印象に残った？
- ・観察会に参加した感想や思ったことは？（楽しかった、暑かった、こんな場所があるなんて知らなかった、コースが短いor長い、次はどんな場所でもどんな鳥が見てみたい、……等々、何でもOK）

上記以外でも観察会に直接・間接にかかわることなら自由にお書きください。長い文章の報告レポートも、もちろん大歓迎です。

◆鳥だより——フィールドノート拝見

日々の鳥の観察記録です。観察した月日、場所、鳥の種類、観察した方のお名前をお寄せください。同好会ホームページの「鳥だより（フィールドノート）」に投稿いただいても、若林宛にメールでお送りいただいてもOKです。会報発行の前月（3月、6月、8月、12月）の20日頃までのものをまとめて掲載します。

◆探鳥レポート、フィールドの紹介、図鑑や図書の紹介、鳥についての思い出、等々こうした文章もお待ちしています。

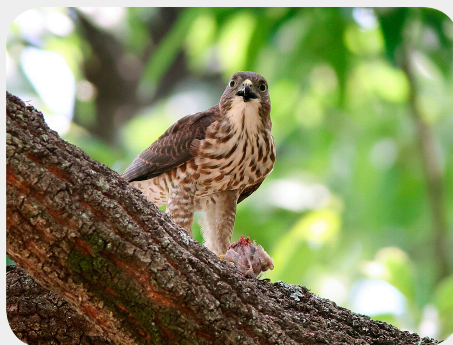
若林幹夫 : mikio-wa@rf6.so-net.ne.jp 〒270-0127 流山市富士見台1-367-49

ホームページと会報の連携も今後考えていきます。よろしく願いいたします。

松伏 緑ヶ丘公園



ツミ 2025.07.15 森岩



ツミ 2025.07.15 森岩



ツツドリ 2025.09.20 相馬

◆ 今後の行事予定

● 10月（第307回）定例観察会

日 時：10月19日（第3日曜日） 担 当：相馬
場 所：利根運河・西深井 または理窓公園②
集 合：運河駅 改札口を出て左側「運河ギャラリー」9時 雨天中止
解 散：12時ころ
持 物：弁当は無しです
※そろそろ冬鳥が来てる頃です。直前の下見で行先を決定します。

● 11月（第308回）定例観察会

日 時：11月16日（第3日曜日） 担 当：若林
場 所：再挑戦！新川耕地（ケリを見よう）
集 合：流山市 北2号公園 9時 雨天中止
解 散：12時ころ
持 物：弁当は無しです
※新企画。詳細はホームページにて10月16日（木）にお知らせします。

● 12月（第309回）定例観察会

日 時：12月21日（第3日曜日） 担 当：若林
場 所：野々下水辺公園、古間木の池
集 合：豊四季駅 南口階段下 9時 雨天中止
解 散：12時ころ
持 物：弁当は無しです
※やっぱり、カモでしょ！

◆観察会は、各1カ月前にホームページにて告知いたします。
ご確認のうえご参加ください。

◆幹事さんへ（幹事会のご連絡）

日 時：12月21日（第3日曜日）14：00～17：00
場 所：生涯学習センター3F 会議室4
※よろしくお願ひします。

◆令和7年9月31日現在の会員数

単位会員45名＋家族会員21名＝合計66名



流山野鳥同好会会報 No. 153 2025年10月10日発行（年4回発行1月・4月・7月・10月）

発行人 相馬 利雄

連絡先 〒270-0163 千葉県流山市南流山6-27-11 TEL・FAX：04-7159-0972

携帯：070-9082-1239 Mail：t.souma1956@gmail.com

郵便為替口座 加入者名「流山野鳥同好会」口座番号：00130-3-608241
